



⑤舟運案内板



③起点案内版



⑦太郎兵衛の供養塔



⑥水神さま



②富士見・川越バイパス



⑪興禅寺



⑫庚申塔



⑬水門



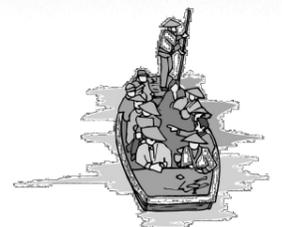
⑭金蔵院



⑩難波田城公園資料館

# 新河岸川散策 舟運のころに 思いをはせて

「富士見のいいところを探そう」と、4月号では「お花見スポット春夏秋冬」を取り上げました。今月号では、鶴瀬西地域では味わえないのどかな新河岸川を散策してきました。東上線が開通（大正3年）するまで、江戸から川越までの重要な交通手段は新河岸川を舟で行き交う舟運でした。そんな時代に思いをはせながら歩いてみました。皆さんの散策コースの一つにしてください。



鶴瀬駅東口から「ららぽーと」行きのバスに乗り、ららぽーとから徒歩で南畑に向かいました。右側にキラリ☆ふじみ、消防署を見ながら10分ほど歩くと南畑橋①に着きます。南畑方面に行くのに、明治時代まではこの橋しかなく、あとは渡し舟を利用していたとか。

南畑橋から新河岸川に沿って設けられているサイクリングロードに入りました。反対岸には帰りに寄る予定の金蔵院、興禅寺を確認できます。川では水鳥が優雅に泳ぎ、白鷺が餌をついばんでいました。新河岸川は九十九折りがあったと歌に歌われていますが、水害防止のため今は真っすべな川に改修されています。

しばらく進むと、富士見・川越バイパス（旧富士見有料道路）の下をくぐります。くぐる手前が本河岸②のあったところだそうです。

30分ほどで、江川との合流地点に着きました。起点の印③が立っています。その近くの江川に掛けられているのが鶺鴒橋④。フェンスには河岸の説明板⑤も設置されています。土手下には舟運の唯一の遺構「水神さま」⑥が残っています。偶然にお話を伺った方が、「先祖が鶺鴒河岸を管んできて、難波田城公園資料館に半纏等を寄贈してあります」と話してくださいました。屋敷内の「太郎兵衛の供養塔」⑦も見せていただきました。太郎兵衛と鶴のお話は、富士見の昔話として残されています。本郷中学校、下の谷公園、寺下住宅街が右に見え、左岸には桜並木が見られます。

10分ほどで木染橋⑧に到着。木染橋を少し超えたところが山下河岸⑨のあったところだそうです。鶴瀬西・関沢や三芳方面から米、こぼろ、さつまいもなどが河岸に集められ舟で江戸に運ばれていたといい、今も河岸道の名が残っています。

私たちはここでサイクリングロードを外れて県道を南畑方面へ向かいました。富士見・川越バイパスを越えると、難波田城公園の標識が確認でき、右に曲がると菅葺き屋根の古民家が見えます。

難波田城公園資料館⑩には舟運の資料が展示されています。公園内には資料館のほかに長屋門、金子家などが移築されていて季節に沿った展示や催しが行われます。金子家の縁側でおやつを楽しんだ後、難波田城公園を後にしました。

南門から出て県道へ。大宮方面に5分ほど歩き左に曲がると興禅寺⑪に到着します。門前には像の足元に見える、間かざる、言わざるの三猿が刻まれている庚申塔⑫が立っています。

少し進むと上南畑神社に到着。そのすぐそばには煉瓦で作られた水門⑬が残されています（明治37年成）。新河岸川からの逆流を防止するためのものです。

17世紀には建立され、徳川時代より明治の初めまで寺子屋があったという金蔵院⑭、南畑公民館⑮をすぎ、信号を左に曲がると出発点の南畑橋に到着です。約2時間の散策コースでした。

時間があったら、南畑橋から勝瀬方面に、木染橋から志木方面に足をのびすのもいいのではないのでしょうか。木染橋から坂の上上がっていくと大応寺、水子貝塚公園にいろいろなコースが楽しめます。